

弘報委員会のことば

二戸に一枚

いよいよ今月から石狩町弘報が産声をあげました。弘報は、皆様に町政をお知らせし、町の実態をつかんでいただき、建設的な正しい批判と世論の造成を使命として生まれ出たものであります。

従って一般の新聞などとはちがつて、面白い小説とか、楽しみに待たるるような記事などは載つていないのであります。

けれども町政とか、町民福祉のために、お知らせする必要のある事項(突発的なものとか、急を要する事項を除いて)は、

大体本紙に掲載されますので、皆様におかれても努めて見逃さず読んでいただきとうござります。

なお取材や、編集も初めての試みで不慣れで、読みにくい所や、不十分な所が多々あると思いますが、皆様からかわいがっていただき立派に成長して何か町内の皆様にお役に立てばと念願している次第です。

◎石狩町弘報は二戸のこらずお配りいたします。

—石狩町弘報1号(昭和26年9月)

国道(札幌留萌線)厚田市街地路盤工事終わる 舗装は明年度の予定

昭和28年5月、厚田(石狩)間の準地方費道が札幌留萌線2級国道に指定されてから今年で11年目になりましたが、ここ3、4年間の国道改修工事はめざましいものがあり、昔の道路の面影がすっかりなくなつてしまいました。

役場所在地である本村市街地も、昨年以来家屋の移転、取りこわし等が終わり、今春から改修工事が行われ、立派な路盤工(舗装工事)をするため

の下水工事が出来上がりまし

た。この市街地道路の幅は車道が11m、両側にそれぞれ3.5mの歩道がつき、車と人との交通安全をはかつており、明年度(昭和40年度)中には待望の舗装工事が施工される予定になっていきますので、自家用車やトラックがすべるように舗道を走り、ランドセルを背負つて元気に通学する生徒が、この歩道にみられるのも間近です。

—広報あつた(昭和39年11月)

山から木から 食糧を取る話

これは山や空き地に「クリ」や「クルミ」を植えることです。苗木の一部に道費補助があります。

皆さんの家で毎年「クリ」と「クルミ」を一本宛植えますと5年目には1万2千本になり

ます。

これが大きくなつて1本から六升とれるとして全部で720石(米換算324石)の収穫となります。

浜益のように山坂が多くて耕地面積の少い所は山や空き地に「クリ」や「クルミ」を植

ることによつて山に水田が出来たと同じことになるのです。—弘報はまます1号(昭和27年5月)



食糧を取る話

生活改善 その一 まずご婦人方に

◎食生活について

私たちは常に幸福を祈っているのです。幸福を左右するものは健康であり、その根本になるものは食生活であります。食べ物、発育、健康、労働に役立つものでなければいけません。

特に忙しい時期になりますと最も多く栄養をとらなければならぬのに、忙しさにまぎれて、つい同じものばかり食べたり、調理に工夫を凝らさなかつたり。でも働く者はおなかですくので腹いっぱい食べますが、その実栄養は必要なだけ取れないといふことになるのです。

ニシン時期になりますと朝から晩まで、またお正月など忙しくない時に豚肉とかお魚

などたらふく食べていますが、あのごちそうを忙しいさかりに食べたらどんなに身体のためになるでしょうか。

また農家で生産された卵や肉(鶏や豚や兎等)を売つて高い魚を買つて食べる。何といつても不合理です。食べ物貯蔵法を研究して常に栄養のあるものを食べるようにしたいものです。

◎衣生活について

世界中で一番着物を持っているのは日本人だと言われています。日本人は一人平均28枚、アメリカでは平均8枚とか。日本人は着物をそのように必要だから持っているのでしょうか。他人から、お金持だとか物持ちだとか言われて有頂天になる虚栄からであつてはこゝへ

700号 御礼企画 プレイバック! 広報いしかり

昭和26年に産声をあげた広報いしかりも、本紙で700号となりました。今回は原点に立ち返り、過去の広報いしかり・あつた・はまますから一部記事をご紹介します。



広報いしかりのバックナンバーは市民図書館2階にあります。貸し出しもしているので興味のある方はぜひご覧ください!

✓で考え直さなければならぬ
いでしよう。(中略)

近ごろ農村の方の衣生活に
綿羊を取り入れて盛んに毛糸
を作りホームパン加工をして
利用されていることは立派な衣

おそろしい 百七十万俵 ただ食いされる

家の中に入ってくるねずみは
何でも食べますが、特に生の甘
藷(サツマイモ)、馬鈴薯、ニンジ
ン、南瓜の種子、南京豆、食パン、
油揚げ類、トウモロコシ粉、そば
粉、小麦粉等をよく食べます。
そのほか肉類油類等なかなか
ぜいたくな美食家です。

ところがまた、かみくだくこ
とのできるものは何でもかむ
という悪いくせもあります。食
べる量も、例えば、体重200g
のねずみは一日の食べ物を20g
食べると言われ、また数は人口
の3倍はいると言われ、北海道
だけで米にして約170万俵
の食糧を食われる計算になり
ます。

その上に、なおねずみが人の
保健衛生上に及ぼす影響は大
きいのです。(中略)

生活の改善だと思えます。もつ
と加工技術とデザインについて
研究習得されたらもつともつと
利用度が高くなることと思ひ
ます。(つづく)

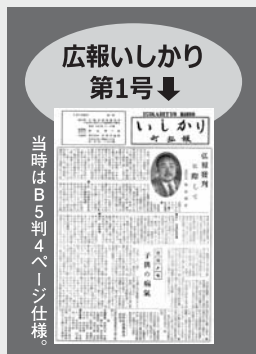
―石狩町弘報7号(昭和27年3月)

道路も生きもの かわいがつて!

道路愛護は、ずっと昔から
「みちぶしん」といつて私たちの
最も身近な、そして最も公のため
めになる奉仕として非常に盛ん
であった。これはわが国ばかりで
なく、古代ヨーロッパにおいても
道路をよくすることは、そこに
住む人々の義務であり、慈善の
行為とも考えられていた。この
ため道路に熱心であった人に対
しては神を敬う奉仕の表れと
して罪を免ずるほどであった。

道路愛護はこのように、ずい

ねずみの殖え方を調べてみ
ますと、繁殖期は3月から11
月の初旬までで、暑い夏の盛り



広報いしかり
第1号↓

当時はB5判4ページ仕様

や、冬の寒さの厳しいときは繁
殖率は減少し、しかも家の中
に集まってくるこの時期はねず
み絶滅の絶好のときです。

ことに集団でねずみを退治
すると、非常に効果が上がり
ますから、皆で協力してねずみ
を根絶しましょう。

―石狩町弘報19号(昭和28年3月)

ぶん昔から続けられているもの
である。

本道の道路愛護事業は、昨
年二年間は約11万人もの人々が
トラック40台、馬車3万3千台
とともに出勤し、1035kmの
道路の修理を行った。これを金
額に見積もつてみると、実に1
億1千円の大きな額に達する
のである。しかもその中には簡
単な修繕ばかりではなく、ほと
んど道路を新しくつくるような
大きな工事もあって、多くの
人々の献身的な郷土愛による努
力を続けているのである。
日本の貧しさは道路にある。
とまで言われているが、これは

ポンプ百より 用心一つ

そら火事といつたら消防ポン
プの出勤で、被害を最小限度に
食い止めることが常識ですが、
どんなに消防力が充実してい
ても発生覚知の時刻、気象の条件、
水利の便、建物の状態などで大
事になるのが常です。火事を出
してからでは何をいつても始ま
らない。先決問題は用心一つとい
うことです。

火の用心だけはいくら用心
しても、し過ぎたということはい
ないのです。

自分のため、人のため、まず
火の用心をいたしましょう。特
に冬期間は雪のため避難がで
きないので、思わぬ惨事が起き
ます。雪囲いや出口や窓の除雪
に十分注意しておいてください。
―石狩町弘報66号(昭和32年2月)

メートル法 準備態勢 町内各店一斉に

明年1月1日から実施され
る「メートル法」の準備のため、
去る6月26日、町内の小売業
者が役場に会合して、いろいろ
打ち合わせしましたが、なるべく
早くメートル法に慣れるよう
にと、7月1日から店先でメー
トル法を使うようにいたしま
した。

消費者の皆様も、どうぞ販
売業者に協力されるようお願い
いたします。

売る人と 買う人で

築くメートル法

―石狩町弘報81823号併号(昭和33年7月)

いかがでしたか?? これからも皆さんにかわいがっていただけませ



広報いしかり

を目指しますのびよろくお願ひします!